おはなし散歩道

虫歯抜き山伏

湯沢町　富樫あい子

むかし、むかし歯医者がいなかったころの話です。

武州の山奥に、虫歯を抜いてくれる山伏がいました。

里の村人は虫歯になると、幾つも峠を越えて山伏のところへ行き、くぎ抜きで虫歯を抜いてもらいました。

くぎ抜き！と聞いただけでも怖いのですが、この山伏に抜いてもらうと、まったく痛くないので、みんなが名人山伏と呼ぶようになりました。

山伏は、仁王様みたいな体つきですが、話し方は鳥がさえずるように優しい声です。

ある日、ずっと前から虫歯だったケチン坊大尽（資産家）が名人の所にきました。治療代を払うのがもったいなくて我慢をしていました。

「イタタタ、一本いくらで抜く。いくらだ！」

大尽が、痛みで大きくはれたほほを、おさえながら聞きました。

「五文（百五十円）です」

「抜くだけで、五文か！」

大尽は渋々いいました。

「いかにも……」

名人は涼しい声です。

「高すぎる。まけろ！」

「それは、なりません」

山伏は、貧乏でお金が払えない人には、ただで抜いてやりました。

「半額にしろ。わしには虫歯がたくさんある」

ケチン坊大尽は、農民いじめで財を築いた大金持ちです。

「いやなら、ほかへ行くがいい」

山伏は、忙しそうに治療をつづけています。

「そう言われても……」

大尽は、しばらく考えていました。

「この場所は三里（約十二キロ）先の谷間まで、わしの山だ。主はだれの許しをえて住んでいる」

いばった言い方です。

山伏は治療の手を止め、

「それは、すまない。でも、住んではいないぞ」

といいました。

「何？」

たしかに、鍋、釜もなければ生活をしているようすがありません。

山伏は、着の身着のままです。大きい切り株が治療台です。

治療に来た人は道端の木かげで休んでいます。

「その切り株は、わしの財産だ！アイタタ……」

ケチン坊大尽は大声をはりあげました。大声は虫歯にさわります。

「それはすまない。この切り株は使いなれてしまった。売ってくれぬか」

「売れ？切り株は誰が抜くんじゃ！」

「自分で抜きます」

山伏は真顔です。木かげにいた村人は、恐る恐る会話を聞いていました。

「虫歯は抜けても切り株は無理だ。一人で抜けるもんなら、ただでくれてやるわい！」

ケチン坊は、生まれてはじめて人に「ただでくれてやる」と言いました。

「本当に、ただですね」

山伏も村人もおどろきました。

「約束だ。その代わりわしの虫歯をただで抜け！

ケチン坊は、切り株の上に大の字になりました。

「これはひどい歯。虫が食いすぎて抜く歯がない。悪くない歯が二本。これは大切な歯で抜けない」

「いいから抜け。一本も抜かないなんて大損だ！」

名人はあきれてケチン坊のいう通り悪くない歯を抜きました。

「イタタタ……」

良い歯を抜いたので、痛くて声も出ません。

「ケチもほどほどにな」

と山伏が声をかけると、治療を待つ村人はケチン坊大尽にあきれはて、ついに笑いだしました。

「切り株をもらうぞ！」

山伏は金剛杖をエイ！と振り上げました。

「南無飯縄大権現！」

と唱えると、バリバリと切り株が宙を舞いました。

「またどこかで会おうぞ」

山伏は、村人に手を振り切り株に乗って天高く去って行きました。

「あっ、天狗さまだ！」

村人の声が武州の山にこだましました。

（おしまい）

（さし絵・小出　茂）

■健康登山者投稿作品■

季節の絵手紙「あやめと蝸牛」

八王子市　栃谷玲子　様

一歩一歩煩悩滅除

百八の階段を昇り、悩みや煩い事を取り除きましょう

三十九段　自惚れるな

三十八段　朗らかな心を育てる

三十七段　互いに譲り合う心を育てる

高尾山　季節散歩

暦の言葉「二十四節気」

夏至「げし」

夏至は六月二十一日頃に当ります。この日は北半球において、一年で最も昼の時間帯が長く、夜の時間が短い日となります。

現在の暦の上では梅雨のため、雨が続き気候が不安定になる時期でもありますので、体調管理には気を付けたいものです。

今月の風物詩

蝸牛

梅雨の季節が訪れると、紫陽花の上にカタツムリが歩いている姿を見かけます。

カタツムリは陸生の巻貝の一種で、デンデンムシやマイマイとも呼ばれております。

近縁種として、殻が退化したナメクジが有名です。

奉納御礼

昭和初期の高尾山写真

去る五月十日、銚子市にお住いの保立和則様と洋子様御夫妻が初夏の高尾山を訪れ、昭和初期の高尾山内の姿を捉えた、貴重な写真を御奉納されました。

和則様の曽祖父が、高尾山二十九世貫首・保立俊恵大和尚の兄にあたるため、当時の写真が残されておりました。

今回奉納頂きました写真は、昭和十年五月十日に飯縄権現堂（御本社）で撮影されたものです。写真には保立大和尚や当時の関係者と共に、当日参拝に訪れた満州国皇帝溥儀の弟である、満州国皇弟・溥傑が写っております。今後この写真を複製したものが、御護摩受付所の信徒休憩所に飾られる予定となっております。

茲に謹んで重ねて御礼申し上げます。

御奉納頂いた写真を持つ保立御夫妻